

## 第 122 回 『わかるように伝えていきますか』

香川大学 坂井 聡

今回は、卒業式の式辞です。

春がきました。

卒業証書を授与された皆さん、卒業おめでとう。

新型コロナウイルスの影響のなかで、今年は全く新しい形の卒業式にチャレンジしました。オンラインでの卒業式で、離れていても参加することができるものです。新型コロナウイルスの影響で学校行事などが無くなってしまい、つらい思いをしたであろう六年生に、思い出に残る卒業式をと先生方が企画し、遅くまで準備をしました。在校生も五年生を中心に準備をしたので実現しました。主役である六年生のためです。六年生のみなさんは、感謝の気持ちを忘れないようにしてもらいたいと思います。

とはいえ、素直に喜べないという思いもあります。それは、今日三月十一日は、東日本大震災の十周年の記念日だからです。私は東日本大震災の後、福島県の浜通りというところにある小学校の応援に行っていました。そこには、津波の被害にあった子どもたちや、原発の被害で避難してきた子どもたちがいました。その子どもたちのことを考えると、今日、「おめでという。おめでとう」と連呼してもよいものかと思ったからです。三月十一日に卒業式があることがわかったとき、副校長先生や教頭先生に日程の変更をお願いしようかと思ったこともありました。しかし、この日に卒業式をすることには大きな意味があると考えるようになりました。それは、今日この日が皆さんが困難に打ち勝つことを決意する人できると思ったからです。

困難に打ち勝つためには、アイデアが必要です。このアイデアを生み出すためには知恵が必要です。しかし、この知恵はなかなか生まれてくるものではありません。じっとしていても生まれてこないのです。元禄時代の作家、井原西鶴は、「金がなければ知恵を出せ。知恵がなければ汗を出せ」と言ったと聞いたことがあります。この言葉は困難な状況にある今でも通じる言葉だと思います。困難を乗り越えていくためにはアイデアが必要です。そのためには、行動を起こし挑戦しなければならぬのです。じっとしていてもアイデアは浮かんでこないからです。

このアイデアを生み出すヒントは、先に述べた井原西鶴の言葉にあります。西鶴は「金がなければ」といいましたが、私はみなさんに次のように言い換えて、その言葉を贈りたいと思います。それは、「知恵あるときは知恵を出せ。知恵なきときは汗を流せ」という言葉です。知恵があれば、いくらでもアイデアは浮かんできますが、その知恵はなかなか出てこないのです。こんなときは、行動を起こして挑戦して汗を流して、アイデアの種を探すということが大切なのです。やってみて、汗を流したところにアイデアが生まれるのです。

汗を流すのは、運動だけではなくありません。勉強でも、お手伝いでも、趣味の世界でも、何でも良いのです。とことん打ち込んでみるのが大切です。新型コロナウイルスの感染拡大による影響はあります。しかし、学校行事が無くなっても、社会が変わってもみなさんはこの社会で生きていくのです。そして新しい社会を切り開いていくのです。そのとき忘れてはならないことは、「知恵なきときは汗を流せ」という言葉です。このことばを実行し、しっかり汗を流したとき、そこに新しい知恵が生まれ、新しいアイデアが浮かんできます。

みなさんは、この学校で多くのことを学んできました。家族の愛情や先生方からの愛情を受けて、新しいことに一歩踏み出す勇気も身につけてきました。困難なとき、諦めるのではなく、自分から勇気をもって一歩踏み出し自分から汗がでるまで動いてみる。そうするとかならず何かが見えてきます。だからこそ、みなさんに贈りたい言葉なのです。これまでの学びを生かして、しっかり汗を流すのです。そんな皆さんの、今後の成長を期待しています。

保護者の皆様、

子どもさんのご卒業まことにおめでとうございます。

附属坂出小学校の教職員一同、この日を迎えるために、人生の先輩として、子どもたちに与えられる精一杯のことをしてきたと思っています。教師として知恵がないときには汗を流して子どもたちに寄り添って歩いてきたと思っています。

至らぬ点もあり、保護者の方々には、ご心配をおかけしたこともあるのではないかと思います。無事この日を迎えることができたことを本当に喜んでいますが、まだまだ、成長の途中の子どもたちですが、家族に守られながら、これからも成長していくことと思います。私たち教職員一同も、子どもさんの成長を少し離れたところからになりますが、見守り、応援したいと思います。そして、ともに汗を流していきたいと思っています。これからも引き続き、お付き合いいただければと思います。また、本校の使命である研究、教育、十種子としての役割をご理解いただき支援いただいたことにも感謝しております。今後も引き続き、ご支援いただければ幸いです。

最後にもう一度繰り返します。

今日、卒業証書をもらった皆さん、卒業おめでとう。

これまでの経験を生かして、社会に貢献できる人となってください。東日本大震災の十周年の記念日に卒業する人として、弱い立場の人や困っている人にやさしく寄り添うことができる人になってください。多くの人に貢献できる人になってもらいたいと思います。これからの皆さんの、大きな成長を期待しています。小学校で教えることはすべて教えました。次は中学校で社会へ出ていくための学びを続けることになります。時につらいこともあるかもしれませんが。その時はこの小学校に戻ってきてください。先生方が皆さんの話を聞き、元気ができるようにして送り出すことができますから。

ここにタンブラーがあります。このタンブラーは、田中先生、山本先生と卒業生の皆さんが作り上げてくれたものです。私は、このタンブラーを見ながら皆さんのことを思い出して汗を流したいと思います。そして、みなさんには、世界一の学校を目指して汗を流す母校を見守り応援してもらいたいと思います。よろしくお願います。これから夢に向かって一歩踏み出す皆さんに「さようなら」の言葉は似合わないと思います。ですから私はみなさんに最後にこの言葉を贈ります。それは「いってらっしゃい」ということばです。

「元気に中学校へいってらっしゃい」

令和三年 三月十一日 東日本大震災の十年の記念の日

香川大学教育学部 附属坂出小学校

～坂井聡先生の紹介～

((プロフィール))

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授。1997年には自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013年より教授に就任。